

平成31年度 事業計画書

(自2019年4月1日～至2020年3月31日)

公益財団法人 全国学校農場協会

本年度基本方針

公益財団法人全国学校農場協会は、定款に定めた農業教育の振興と発展を図ることを目的にこれまで事業を推進してきた。その基幹は農業の持つ教育力であり、世代を超えて農業教育の力を広く人々に発信し、日本農業の発展に寄与することを主たる目標としている。

近年、国民の農業への関心の高まりとともに、地域、ふるさと、絆、コミュニティー等が見直され、農的な社会形成の機運が高まっている。しかし一方では、科学技術の進展に伴ってAIやロボット、ドローンなどを駆使した農業が急速に普及し、人と自然との関わりが希薄になることが懸念されている。この様な実態を踏まえ、当農場協会は農業を中心とした人間と自然との関わり合いを大切にしながら素晴らしい農村文化を継承し、将来の日本農業を教育的視点からリードして豊かな社会形成に寄与していきたいと考えている。

本年度は、組織の強化と事業の精選・活性化を図り、更に内容を充実して広く国民に農業並びに農業教育の重要性と必要性を伝える事業を推進するとともに発展著しい農業技術の研修・普及を図る事業を合わせて推進していきたい。

事業計画

当公益財団法人は、定款に定めた事業方針に基づき、本年度は以下の5つの事業を支柱に据えて事業活動を進める。

- I 研究発表及び教育行政・農政・学術・学際的講演等による農業教育を推進する事業
- II 農業教育・環境及び健康教育に関するシンポジウムを開催（共催）する事業
- III 学術及び科学技術の推進を目的とする事業
- IV 図書・機関紙等の刊行事業
- V 地域文化（芸能芸術・農村文化・文芸）振興を推進する事業

I、研究発表及び教育行政・農政・学術・学際的講演等による農業教育を推進する事業

- 1、広く国民に農業教育の推進と農業の果たす役割の理解の深化を図るために、全国高等学校農場協会と共催する全国大会・農業教育研究協議会・支部大会で研究発表並びに講演を行う。また一般の方の参加を促すため公開とする。本年度は下記の通りである。

- ・全国大会(6月)並びに農業教育研究協議会(12月)・・・(東京開催)
- ・支部大会(旭川市・仙台市・武蔵野市・福井市・大阪市・山口市・高知市・諫早市)

- 2、農業教育の普及・振興に貢献した各位に対する農業教育功労者表彰の実施

II、農業教育・環境及び健康教育に関するシンポジウム開催（共催）に関する事業

1、広く地域の人々と共に「人と自然との共生」をテーマに農業並びに農業教育・環境及び健康教育を推進するためにフォーラムや各種シンポジウムを実施してきたが、2019年度については、下記のフォーラム並びにシンポジウムを実施する。

・農業女子フォーラムの開催（担当地区：中国地区）

「第4回アグリ・夢・未来塾 兼 農業女子フォーラム in 岡山」

①開催 県： 岡山県

②日 時： 平成31年(2019年)7月22日(月)13:00~16:30

③会 場： 岡山県立青少年農林文化センター三徳園研修交流館会議室

④内 容： 1、各領域からの情報提供

・農業大学校、酪農大学校、農林漁業担い手育成財団等

2、ディスカッション

テーマ：「集まれ、次代の農業人！～若いうちはやりたいこと
何でもできるのさ～」

異年齢の参加者で意見交換の後、農業経営者や女子就農者の方々とグループをつくり意見交換を通して、農業の魅力や面白さを発見し、自分の目指す農業を見つける。

⑤参加対象： 高校生、農業大学校生、酪農大学校生、大学生、女子就農者など

⑥参加農業経営者：6～8名の参加者を計画し、現在交渉中で新年度早々に決定

・公開シンポジウムの開催（千葉県柏市、開催日時、内容等詳細は検討中）
農業高校支援機構と共催で実施

・オープンディスカッションの開催（開催地、開催日時、内容等詳細は検討中）
実践総合農学会と共催で実施

尚、検討中の各事項については、新事業年度開始早々に共催団体と協議し具体化を図る予定。

III、学術及び科学技術の推進を目的とする事業

1、農業実験実習講習・教員免許状更新講習

国民に健康で安心・安全な食料を安定的に供給する農業を実現する農業教育を推進・発展させるために、最新の学術・技術の習得、研修・研究を追求すると共に、その技術を学校教育・農業実践の現場で発揮し、次代を担う若者の教育に生かすことを目的として実施する事業である。

なお、この講習は夏季休業中の5日間を充て、全て出席すれば修了証が授与される。また、教員免許状更新講習（選択領域）の履修についても、この期間の講習を受けることによって履修が（選択領域18時間分）認められる。対象は、農業科・家庭科・技術科・理科の小中学校・高校の教員、及び栄養教諭である。

(文部科学省教員免許状更新講習の認定：平成 31 年 2 月 5 日)

この事業は、当公益財団法人が全国の大学等に依頼して行う講習である。本年度の開催は下記の通りである。また、教員免許状更新講習実施地区は4地区である。

- ・北海道地区：農業と環境 帯広畜産大学 (北海道帯広市)・教員免許状更新
- ・東北地区：農業と環境 山形大学 (山形県鶴岡市)
- ・関東地区：農業と環境 立正大学 (埼玉県熊谷市)・教員免許状更新
- ・近東地区：農業と環境 龍谷大学 (滋賀県大津市)・教員免許状更新
- ・中国地区：農業と環境 県立広島大学 (広島県庄原市)・教員免許状更新
- ・九州地区：野菜・農業機械 県立農業大学校 (大分県豊後大野市)

2、免許法認定講習

全国の農業関係高等学校に勤務する実習助手を対象とした免許法認定講習を北海道酪農学園大学及び東京農業大学で実施する。この講習は、当公益財団法人が前記2大学に開講の協力を要請し、文部科学省の委託事業として実施するものである。

(開講は北海道酪農学園大学：7月下旬、東京農業大学：8月下旬の予定である。)

3、調査・研究

当公益財団法人では、農業及び農業教育に関する調査研究を継続的に実施する。本年度は下記の4分野での調査研究を実施する。研究成果は農業教育研究協議会(毎年12月開催)で口頭発表すると共に研究集録として集約刊行し、関係省庁をはじめ研究機関、など広く関係団体等に配布する。尚、平成31年度(2019年度)の口頭発表は畜産部門(生物生産系部会)と森林・林業部門(環境系部会)である。

- 1) 畜産、園芸、農業機械(生物生産系部会)
- 2) 森林・林業、農業土木、造園(環境系部会)
- 3) 食品、流通、生活・ヒューマン(資源活用・ヒューマンサービス系部会)
- 4) 農場運営、栽培系学科、学校特色化(学校経営系部会)

IV、図書・機関紙等の刊行事業

1、研究集録の刊行

全国の農業関係高等学校等を対象とした教育内容や教育実践、教育環境等に関わる調査研究の成果や講演要旨、シンポジウムの内容等を収約した研究集録を事業年度末に刊行し、農業教育の理解の深化と普及の一助とする。

2、「農業学習ノート」の研究開発刊行並びに実習手帳の発刊

農業科目「農業と環境」で扱う“トウモロコシ”“ダイコン”などの作目に対応した「農業学習ノート」を作成発行し、科目実習の学習効果を高めるための実習教材

の研究開発を進める。また、「実習手帳」を発刊し、実習教育の向上と充実を図る。

3、「公益財団法人 全国学校農場協会新聞」の発行

当公益財団法人の活動状況や全国の農業教育に関する情報を収集し、広く農業や農業教育に携わる方々や関係機関等に配布して情報を提供する。発刊は年4回（1号～4号）とする。

4、ホームページの充実

当公益財団法人の活動状況や農業教育に関する実践や研究の成果、関係省庁からの情報等をネットを通して広く普及するためホームページの活用、充実を図る。

V、地域文化（農村文化・芸術・文芸）振興を推進する事業

1、第11回農業関係高等学校エッセイコンテストの実施

全国の農業関係高等学校に学ぶ約8万人の生徒を対象として、第11回エッセイコンテストを実施する。当事業は日本農民文学会との共催事業であり、優秀作品は農民文学会機関誌及び全国・地方新聞、当公益財団法人のホームページにて公開する。

2、第5回農業関係高等学校 農業・農村写真コンテストの実施

全国の農業関係高等学校の生徒(生徒の部)並びに職員(職員の部)を対象として第5回農業・農村写真コンテストを棚田学会との共催で実施する。このコンテストは、日本の農村の持つ価値や風景の素晴らしさを多くの人に知ってもらうこと、また、そこに生活する人々が、その地域の素晴らしさや価値を再認識し、自信を持ってもらうことを目的としている。テーマは四季を通しての「わが農村の風景」「額に汗して作業に励む姿の素晴らしさ」「わが里山の自慢したい美しい風景」「地域の歴史を語る棚田の風景」など農業・農村に関するものを想定している。優秀作品は棚田学会総会、協会ホームページで発表する。

以上、当公益財団法人全国学校農場協会は、上記の5事業は広く国民に農業並びに農業教育の理解と普及・発展を図る上では極めて重要であると考えている。今後、新たに導入を検討している事業も含め、この事業の展開によって全国での農業教育の推進が更に進み、「国の基盤としての農業・農村」の役割の重要性と認識の深化、また「農がもたらす心の豊かさのある生活の素晴らしさ」をより多くの人々に伝えることができるよう全力を傾注していくものである。